

第100回研究報告

Turing Award, Gödel Prize を受賞する為に必要な最低限の知識について

神奈川 太郎

2015 年 4 月 16 日

1 概略

ゼミ資料の内容を数行で書く。どんな疑問について、どんな所に着眼して、どんな検討をし、どんな結論を得たのか。

2 準備

先生の授業の様に前回の復習から始める。予備知識を復習する。“連とは何か”など。

3 前回までの経緯，問題点

何が問題となっていたかを概説する。

4 本論

4.1 表の挿入

加減乗除を理解している必要がある。表を用いて確かめるとか確かめないとか。

表 1: 加減乗除が分かるようになるかもしれないルールリスト

Filter	F_1	Filter	F_1
R_1	$*0*1$	R_7	$**10$
R_2	0000	R_8	$01**$
R_3	$0*00$	R_9	$*11*$
R_4	$0*1*$	R_{10}	$*000$
R_5	1100	R_{11}	$*1*1$
R_6	$*01*$	R_{12}	$***1$

4.2 図の挿入

図 1 には、一ヶ所誤りがある。見つけよ。見つけられれば、1 から 2 までの数を数えられている。

下の用に記述すると、

```
\begin{figure}[!htbp]
\centering{
\scalebox{0.8}{\input{rbtrie.tps}}
```

```
\caption{表\ref{rulelist}から構成した
Run-Based Trie}
\label{paper_rbtrie}
}
\end{figure}
```

図 1 が適当な位置に挿入される。

5 まとめ，今後の課題

因数分解を理解する予定。

参考文献

- [1] 原田崇司, 田中賢, 三河賢治, “決定木を用いた Run-Based Trie の探索法,” 電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集, sep 2014.

6 チェックリスト

- $5 + 3 = ?$
- $5 \times 5 = ?$

A 参考文献の書き方

参考文献の書く為には、makefile 中の pbibtex 行のコメントアウト (#) を外し、本文中参照すれば良い。例えば、tex ファイル中に `\cite{2014RbtHARADA}` (2014RbtHARADA は、template.bib 中で論文 [1] を参照する為に対応付けたラベルである) と書けば、

[1]

の様に参考文献に対応する番号を表示する。また、

```
{\small
\bibliographystyle{ieice.bst}
\bibliography{template}
}
```

を tex ファイル中に書いた場所に参考文献が表示される。但し、pbibtex を行う (makefile 中のコメントアウトを取り除く) のに、本文中に上記の `\bibliographystyle{}` を記さない、または、本文中で参照 (`\cite{~}`) を行わない、ということをする、コンパイルエラーになる (この makefile,

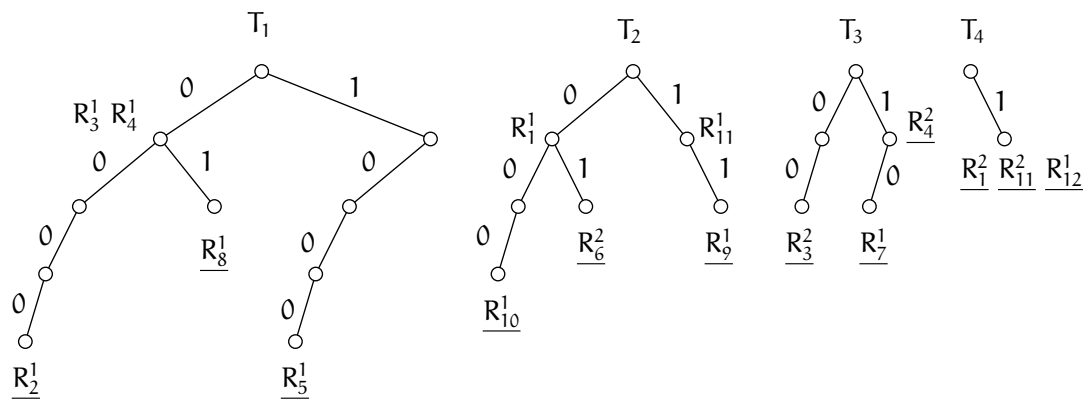


図 1: 表 1 から構成した Run-Based Trie

若しくは tex ファイルが悪いだけで，良い方法があるかもしれないので，解決法をご存知の方は，教えて下さい）．

r201470039hs at kanagawa-u.ac.jp